

まるカン2023

ひっかけ
問題

地域・在宅看護論

1 介護保険制度について、次の選択肢のうち不適切なものはどれか。

1. 介護支援専門員がケアプランを作成する。
2. 訪問看護は介護保険を適用することが可能である。
3. 40歳未満は対象にならない。
4. サービスを利用できるのは65歳以上である。

介護保険サービスを利用できるのは40歳以上で、40歳以上から65歳未満は第2号被保険者、65歳以上は第1号被保険者と区別されている。【答え 4】

2 介護保険法で定める16の特定疾病について、次の選択肢のうち不適切なものはどれか。

1. 適用される年齢が決まっている。
2. 早期がんは含まれていない。
3. 筋萎縮性側索硬化症が含まれている。
4. 特別訪問看護指示書を出す判断のために使用される。

介護保険法で定める16の特定疾病とは、第2号被保険者(40歳以上から65歳未満)が介護を必要とする状態になった時に介護保険が利用できるように定めたもので、特定疾病に該当する場合は介護保険を利用できる。特別訪問看護指示書は、疾患の急性増悪や終末期など、頻回な訪問看護が必要な状態のときに主治医から出されるものである。【答え 4】

3 訪問看護ステーションについて、次の選択肢のうち不適切なものはどれか。

1. 訪問看護とは居宅等において看護師等により行われる療養上の世話または必要な診療の補助である。
2. 訪問看護ステーションには2.5人以上の職員が必要である。
3. 訪問看護ステーションの管理者は常勤の看護職でなくてはならない。
4. 訪問看護ステーションには運営に必要な専用の事務室を設ける必要がある。

訪問看護ステーションの看護職員(保健師、看護師、准看護師)は、常勤換算で2.5人以上必要である。【答え 2】

4 介護保険制度における居宅サービス等について、次の選択肢のうち適切なものはどれか。

1. 訪問介護とは、看護師が日常の生活の世話をを行うサービスである。
2. 通所介護とは、通所介護施設で療養者が日常生活上の世話と機能訓練を受けるサービスである。
3. デイサービスとデイケアは名称が違うが、サービス提供内容は同じである。
4. 短期入所生活介護と短期入所療養介護はいずれもショートステイといわれ、医療的ケアの依存度が高い人ほど前者を利用する。

訪問介護は、介護福祉士や訪問介護員（ホームヘルパー）が担うサービスである。デイケアは、医師が必要と認めたりハビリテーションを、理学療法士等の専門職が計画的に実施する通所施設である。医療的ケアの依存度が高い場合のショートステイは短期入所療養介護を、通所の場合は療養通所介護を利用し、通常通所介護とは異なる。【答え 2】

5 地域包括ケアシステムについて、次の選択肢のうち適切なものはどれか。

1. 住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するしくみである。
2. 自助・互助・共助・公助があり、介護保険は公助である。
3. サービス対象圏域は小学校区域を目安としている。
4. 地域包括支援センターでは、保健師等、社会福祉士、介護支援専門員の三つの専門職が在籍している。

介護保険は共助である。公助は、一般財源による高齢者福祉事業、生活保護、人権擁護、虐待対策等である。サービス対象圏域は中学校区域とし、徒歩30分圏内を目安としている。地域包括支援センターの三つの専門職は、保健師等（看護師も含まれる）、社会福祉士、主任介護支援専門員である。【答え 1】

6 Aさん（68歳、男性）は、筋萎縮性側索硬化症<ALS>のため在宅療養中で、気管切開下で人工呼吸器を使用し、要介護5の認定を受けている。

Aさんに提供される訪問看護で適切なものはどれか。

【第109回 午前69問】

1. 医療保険から給付される。
2. 特別訪問看護指示書を受けて実施される。
3. 複数の訪問看護事業所の利用はできない。
4. 理学療法士による訪問は給付が認められない。

訪問看護というと、介護保険の給付の印象が強いが、筋萎縮性側索硬化症は厚生労働省が定める医療保険適用の疾病に該当する。このほか、末期がんや指定難病も医療保険給付の対象となる。このように、訪問看護に関する問題に傷病名が含まれる出題の傾向も増えており、医療保険適用の疾病について理解ができていれば、回答の迷いが少なくなる。【答え 1】

7 胃瘻からの経管経腸栄養法を開始した在宅患者の家族に対する説明で正しいのはどれか。

[第 101 回 午前 48 問]

1. 液状の栄養剤は開封後数日間使用してよい。
2. 栄養剤の注入は無菌操作で行う必要はない。
3. 胃瘻を造設したので経口摂取は禁止となる。
4. 胃瘻カテーテルは週に 1 回交換する。

家族に説明するつもりで学習すると、正答の選択の迷いが軽減する。清潔に保つ必要はあるが、無菌操作である必要はない。では、ほかの三つの選択肢は誤りなのか。1、4 は不適切な説明である。3 の経口摂取については、出題文の設定によっては正答となることも考えられる。誤嚥を繰り返すことが原因での造設であることや、造設時に肺炎状態であることなどが付記されている場合は、経口摂取を禁止することが正答となり得る。すべての選択肢を介護者に説明するつもりで、「なぜかという」とを添えて考えれば、確かな理解を得られよう。

【答え 2】

8 終末期の癌患者の在宅ケアで正しいのはどれか。2 つ選べ。

[第 101 回 午後 87 問]

1. 家族の悲嘆のケアも含まれる。
2. 訪問看護は介護保険の適用である。
3. 夜間・休日を含めた連絡体制を整える。
4. ADL が自立している患者は対象とならない。
5. 主治医は在宅療養支援診療所の医師に限られる。

この問題の問いは、“正しいものを選ぶ”ことである。しかし、選択肢には正文と否定文が含まれ、正答を導く際に混乱する可能性があるため注意したい。選択肢 1 は正答であることを容易に導き出せそうだが、迷う点は 2、3、4、5 であろう。2 については、問題 6 の学習が進めば誤答であることがわかる。訪問看護は日中に訪問する印象が強いが、訪問看護ステーションの機能を知っておくことと、訪問看護の対象となる人の基準、患者の権利を理解しておくことで正答を選択できる。【答え 1・3】

9 A さん（80 歳、男性）は、20 年前に大腸癌でストーマを造設し、現在週 1 回の訪問看護を利用している。訪問看護師は、訪問時に A さんから「2 日前から腹痛がある」と相談を受けた。A さんのバイタルサインは、体温 36.4℃、呼吸数 24/分、脈拍 84/分、血圧 138/60mmHg である。

訪問看護師が A さんの腹痛をアセスメントするための情報で最も優先度が高いのはどれか。

[第 107 回 午後 64 問]

1. 排便の有無
2. 身体活動量
3. 食物の摂取状況
4. ストーマ周囲の皮膚の状態

「20年前にストーマを造設」と「優先度が高い」が鍵。選択肢1～4はストーマを造設した人にはすべて重要な情報であるが、この問題は“優先度”を問うている。造設は20年前ということから、手術によるストーマ周囲の急激な皮膚異常は考えにくく、腹痛の原因として、消化機能の低下または排泄機能の低下を考えるのが自然であろう。また、問題文を読むと、バイタルサインの結果に注視するほどの異常値はなく、20年間ストーマと付き合っていることから、ストーマ保有者の消化機能よりも排泄機能をアセスメントするほうが、優先度が高いといえる。【答え 1】

10 Aさん（83歳、男性）は、脳梗塞の後遺症で右片麻痺があり、在宅療養中である。嚥下障害のため胃瘻を造設している。義歯を装着しているが、自分の歯が数本残っている。
Aさんの口腔ケアについて介護者への指導で適切なのはどれか。 [第107回 午前61問]

1. 義歯を装着したまま歯を磨く。
2. 経管栄養直後に実施する。
3. ペースト状の歯磨剤を使用する。
4. 歯垢の除去には歯ブラシを用いる。

片麻痺、嚥下障害、自歯、義歯、胃瘻。問題上の情報を分解して、考えを整理する。自歯が残存していることから、歯ブラシでの歯垢除去は適切な方法である。1は当然ながら「義歯は外して洗浄する」、2は「経管栄養直後は口腔内の刺激で嘔吐反射を誘発する可能性がある」ことを迷わず判断できるであろう。迷うのは3か4ではないだろうか。3が不適切である理由は、ペースト状の歯磨剤の使用によって口腔内の洗浄に水を多く使う可能性があることによる誤嚥のリスク、または、ペースト状の歯磨剤の拭き取りに時間がかかり、嘔吐反射や疲労を誘発する可能性があることである。嚥下障害、自歯、義歯、胃瘻、介護者をキーワードに選択肢一つひとつを検討すると、この中では4が適切であると導き出せる。【答え 4】

在宅看護学では、中心静脈栄養や人工肛門造設、胃瘻に関する問題も出題されている。基礎看護学や成人看護学との関連学習に加え、家族への支援を理解する学習を進めよう。また、近年の傾向として終末期に関する出題も顕著である。